

コンパクトスマート水田園芸経営モデル研究 (アスパラガス超省力栽培)

水田園芸推進品目「アスパラガス」を基幹として家族労力(夫婦2人を想定)で販売額1,000万円を実現できる経営モデルの構築を目指して、スマート農業技術の実証を行っています。

アスパラガス(ハウス半促成長期どり栽培)の総労働時間は10a当たり836時間で、その内の約77%を①収穫・調製、②施肥・かん水、③防除作業が占めており(島根県農業経営指導指針)、それら作業が重複する繁忙期に2名の労働力で35a(目標とする経営モデルでの想定面積)をこなすためには、この時期の労働時間を約25%削減する必要があります。



図1 高畝栽培の様子

当センターでは、近年急速に技術が進みつつあるスマート農業技術等の活用、導入により、これらの作業の省力化が十分に可能であると考えています。

現在、作業時間のウエイトが高い作業の自動化を進めるため、作業姿勢の改善が可能な「高畝栽培^{*1}」をベースに、民間会社で開発されたスマート農業技術「①小型多機能ロボット、②AIかん水施肥ロボット、③自動噴霧装置」(図2)等を組み合わせ、経営モデルの構築に向けて、所内及び現地で実証しています。

各種スマート農業技術の活用により、繁忙期の労働時間を大幅に削減する「アスパラガス超省力栽培」を確立し、2名の労働力で販売額1,000万円を実現できる経営モデルの作成、及び本県に適したスマート農業技術の現場実装を目指します。

^{*1} あぜ波板で畝を60cm高くした栽培方法



小型多機能ロボット

AIかん水施肥ロボット

自動噴霧装置

図2 実証中のスマート農業機器

問い合わせ先：栽培研究部水田園芸科(担当:高祖 崇好)

TEL 0853-22-6991
E_mail:nougi@pref.shimane.lg.jp